



# 20年で88名の研究者が支援した次世代向け教育プログラム 「地震火山地質こどもサマースクール」 2021年は浅間山北麓で開催

第21回地震火山地質こどもサマースクール 実行委員会【(公益社団法人日本地震学会 / 特定非営利活動法人日本火山学会 / 一般社団法人日本地質学会 / 浅間山ジオパーク推進協議会)】

社会に大きな影響を及ぼした兵庫県南部地震や東北地方太平洋沖地震等の被害地震は、地震研究と社会との温度差をも浮き彫りにした。それを受けて作成された「地震学会の改革に向けて：行動計画 2012」(出典：2012年10月11日日本地震学会理事会)の中では、社会に対して地震学の等身大の現状を伝えていくことの必要性が述べられている。本活動は、2日間に渡るオリジナリティの高いプログラムの中で、「最新の地震学でも分かっていないから怖いこと・面白いこと・大切なこと」を、参加者全員で考え、共有し、持ち帰って頂くことを目的にしている。今年度より名称を「地震火山地質こどもサマースクール」に更新し、より社会に発信する活動を継続していく。



### サマースクールの根本理念

- 1) 研究最前線の専門家が子どもの視点にまで下り、地震・火山現象のしくみ・本質を直接語る
- 2) 災害だけでなく、災害と不可分の関係にある自然の恵みを伝える

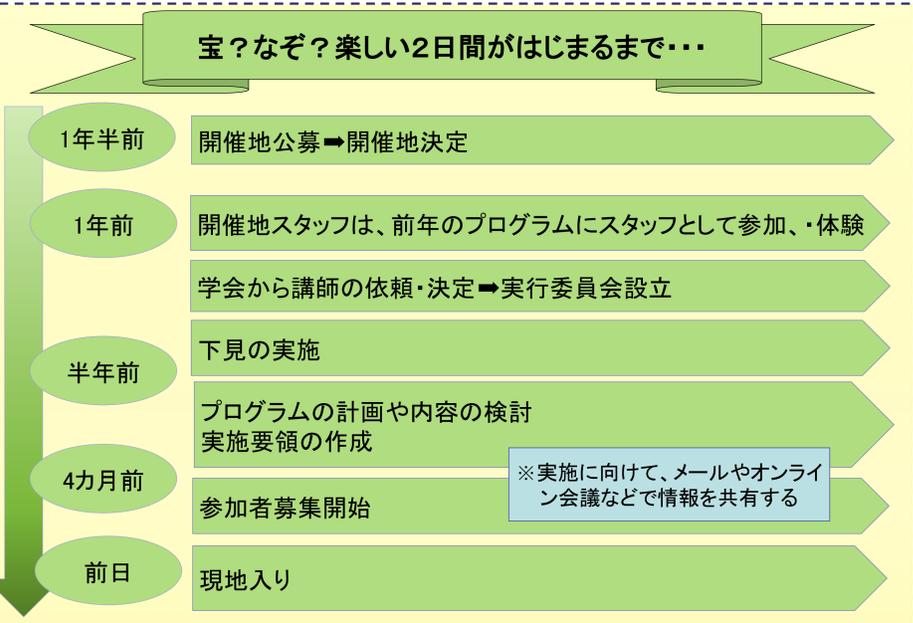
### 当初の狙いをこえた成果

- 1) 子どもたちの自由な発想に専門家が教えられた
- 2) 自然の災害と恵みの理解を深めることが地元愛に繋がった
- 3) サマースクールのプログラムを地域活動に生かした開催地もできた
- 4) 専門家と接することがキャリア教育に繋がった
- 5) 卒業生の中にはスタッフとして参加する者もでてきた(人材発掘)

この行事の理念は、「火山に関する知識・情報の伝達と普及-現在の視点でみた現状と課題-小山2005)にあるように、研究者が刺激を受けることを想定していなかったことも含め、変えていない。

### 大学・研究所(職業研究者)参加講師 (合計88人=複数回参加で延べ194人)

京大(12),名大(6),東大(7),産総研(6),日大(4),熊本大(3),静岡大(3),防災科研(3),九大(2),高知大(2),富士常葉大(2),北大(2),山口大(2),神奈川県博(2),京都教育大(2),茨城大(1),慶応大(1),早大(1),千葉大(1),電中研(1),東北大(1),奈良教育大(1),新潟大(1),フォッサマグナミュージアム(1),福島県博(1),福島大(1),妙高火山研(1),温地研(1),広島大(1),佐賀大(1),砂防・地すべり(1),桜美林大(1),鹿児島大(1),首都大(1),秋田大(1),神戸大(1),鳥取大(1),東京海洋大(1),北翔大(1),立命館大(1),和歌山大(1),阿蘇火山博(1),アジア航測(1),兵庫県立大(1),国立科学博物館(1),京都造形芸術大学(1)



日程	プログラム	開催地	参加者/スタッフ
1999年8月20-21日	第1回 「丹那断層のひみつ」	静岡県函南町など	22/19
2000年8月26-27日	第2回 「有珠山ウォッチング」	北海道杜町、虻田町など	59/21
2001年7月20-22日	第3回 2001地震火山世界こどもサミット	東京都・大島町、三原山など	163/63
2003年8月2-3日	第4回 「活火山富士のひみつ」	静岡県富士市、富士山など	25/34
2004年8月7-8日	第5回 「Mt. Rokkoのナゾ」	神戸市、六甲山など	21/51
2005年8月19-20日	第6回 「霧島火山のふしぎ」	宮崎県都城市、霧島など	23/22
2006年8月12-13日	第7回 「湘南ひらつかプレートサイド物語」	神奈川県平塚市、松田町など	31/43
2007年8月4-5日	第8回 「箱根ひみつたんけんクラブ」	神奈川県箱根町、小田原市	30/43
2008年8月23-24日	第9回 「都(みやこ)をつくった盆地のなぞ」	京都市	25/55
2009年8月8-9日	第10回 「火山が作った維新のまち・萩の景色のひみつ」	山口県萩市	37/44
2009年11月28-29日	— 地震火山こどもフォーラム	東京都	65
2010年8月7-8日	第11回 「室戸ジオパークを610倍楽しむ方法」	高知県室戸市	29/44
2011年8月6-7日	第12回 「磐梯山のお宝さがし」	福島県会津・磐梯山	21/47
2012年8月18-19日	第13回 「東と西に引き裂かれた大地のナゾ」	新潟県糸魚川市	33/50
2013年8月3-4日	第14回 「南から来た大地のものがたり」	静岡県伊豆半島	33/45
2014年8月2-3日	第15回 「島原半島に隠された九州のヒミツ」	長崎県島原半島	21/38
2015年8月2-3日	第16回 「まくれあがった大地と中央構造線のナゾ」	長野県伊那市など	26/43
2016年8月20-21日	第17回 「南紀熊野の海と山のヒミツ」	和歌山県串本町など	38/60
2017年8月9-10日	第18回 「熊本地震で見つけた大地のヒミツ」	熊本県益城町	28/53
2018年8月7日	第19回 「火山島 伊豆大島のヒミツ」	東京都・大島町、三原山など	34/55
2019年8月10-11日	第20回 「丹後半島のヒミツ」	京都府宮津市、京丹後市	20/31

### さあ はじまる 2日間！

全国から集まったお友達と自己紹介したあとは、2日間で解き明かす「ナゾ」の発表

### 与えられた「ナゾ」を解き明かせ！

小・中・高・スタッフ(専門家外の安全管理員)の縦割りのチームで取り組みます

### フィールドワークで実物を見る！

見て 触って 感じる 5感をフル回転させ ナゾに迫る

### 景色の中にヒントがたくさん？！

いつも見えていた景色が違って見えてきた！



### 専門家の視点で考えたアイデア実験！

実験を通じ、地震火山地質の原理を解き明かす

### 大人は口出し禁止！！

子どもたちは発想力、想像力、考える力を大いに発揮する



### 先生からのお話！

最前線の専門家が今どこまで分かっているのか過去に何があったのか、子供たちの視線において解説します。研究者になった理由も聞けるかも！

### 美味しいごはん、温泉も重要なカギ？

寝食ともすることで、異学年交流も生まれ、積極的な意見交換のきっかけに



### まとめの時間！

子どもたちの自由な発想が未来の地震学に新たな光を見つけるカギになることも・・・？



### 締めくりは こどもフォーラムでナゾの発表

自由なスタイルでの成果発表では、大人たち期待を上回る発表の連続。地震は怖いだけではなく、恵みも感じた。わからないこともまだまだあるから、防災についてもみんなで考えよう。ナマズ博士になれたかな？



### 新しい気づきや発見が研究意欲につながり、地震学の社会的意味を知ること！！

その時、子どもたちが残してくれたことばに「一人の百人力より百人の一人力」というのがあります。身の回りの自然について恵みも含めて学ぶことは、人間を謙虚にし、自然への畏敬の念が生まれ、知らず知らずのうちに防災への基本姿勢が備わるということを実感した瞬間でした。(名古屋大 武村)

地震や火山は、戦争や治安の問題とは意味が違う。自然によって災害が起こるのだから、小手先だけのHow toではなく、自然のことを恵みも含めて根底から理解することがベースにしなければならない。(静大 小山)

驚くべき発想力。すべて、本質的で重要な視点・・・たじろぎました。(産業総合研究所 寒川旭)

大変、素晴らしい経験ができた。大学研究者も、子供たちと相互に学びあう姿勢が必要だ。(東京海洋大 木村学)

### 21年間続けて こどもたちから出てきた言葉はサマースクールの財産！！

地球の営みがもたらす大きな恵み。そして避けることのできない自然災害。これらを実際の自然を目の前に、最高の講師の方々から教えて頂けるのがサマースクールの魅力。(卒業生)

地球の営みがもたらす大きな恵み。そして避けることのできない自然災害。これらを実際の自然を目の前に、最高の講師の方々から教えて頂けるのがサマースクールの魅力。(卒業生)

地球科学は、私たちがこの星で幸せに暮らしていくための大切な学問だと知りました。(参加者)

益城町は火山や地震によっていろいろな被害を受けましたが、同時に多くの自然の恩恵を受けていることに気がつきました。(参加者)

### 地震火山地質こどもサマースクールのHPを新しくしました。

新しいコンテンツの他に過去の実験データなども詳しく解説。21年続けてきた歴史を覗いて下さい。

URL: <https://kodomoss.jp/>